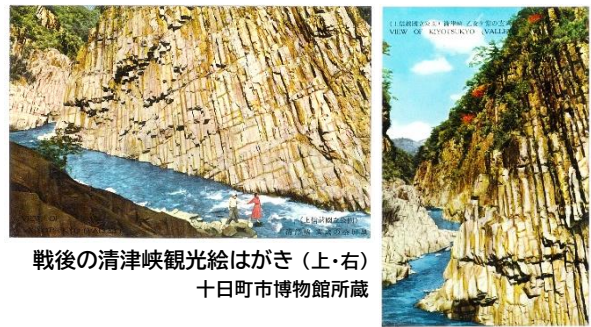




名勝“清津峡”の誕生（後編）～名勝天然記念物指定へ～

『十日町新聞』で“奥の景”が“清津峡”と表されるようになるのは、島田青峰の句碑が建立された翌1934（昭和9）年ころからです。時を同じくして、清津峡と田代の七ツ釜を名勝天然記念物にという話が持ちあがっていました。これは「史蹟名勝天然記念物保存法」（1919年施行）に基づくもので、同法を引き継いだ現行の「文化財保護法」によると、「名勝」は「庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他名勝地で我が国にとって芸術上又は鑑賞上価値の高いもの」、「天然記念物」は「動物、植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの」のうち、それぞれ重要なものと説明されています。

1934（昭和9）年6月11日、県の社寺兵事課長大谷茂平が七ツ釜、清津峡を来訪。ここから申請への動きが始まります（『十日町新聞』同年6月15日、20日、以下『十』と略）。地元の倉俣、田沢、中深見各村では、7月2日に七ツ釜・清津峡保勝会を設立（『十』7月5日）。田沢駅に鉄筋2丈余の標識を立て、沿道に道標をつくり、ポスター、チラシ、パンフレットなどで宣伝を行いました（『十』7月10日）。また、万年橋を渡って小出温泉まで自動車が入れるよう、幅が広いつり橋への架け替え工事に着手（『十』7月25日）。田沢駅では、清津峡と七ツ釜の景観をあしらった記念スタンプも新調されました（『十』9月10日）。

1936（同11）年6月10日、指定を目指す期成同盟会が組織されて運動は本格化します（『十』6月15日）。同月、倉俣村、田沢村、三俣村の連名で文部省に名勝地指定の申請書を提出。同時に期成同盟会が要請したのが、文部省の名勝天然記念物調査委員である脇水鉄五郎博士の派遣でした。

地質学者、土壌学者の脇水鉄五郎（1867-1942）博士は、美濃大垣生まれ。東京帝国大学教授を退官後、文部省の調査委員として全国で名勝、天然記念物の調査を行っていました。地質学の理論に基づいて風景を評価するという新しい地平を開いた学会の権威で、『車窓から観た自然界』東海道・山陽道編、『日本風景誌』、『耶馬溪彦山風景論』などの著書があります。

博士は2年前にも清津峡を訪れていましたが、正式な要請をうけ、再び足を運ぶことになりました。8月15日に十日町入りした一行は、博士を筆頭に、地質学者で新潟高校教授の徳重英助、県の郷土博物館主事となった大谷茂平、常松県社寺兵事課長ら10余名。17日朝に出発し、七ツ釜を経て夜には小出温泉に到着。翌朝、清津峡に入りました。

清津峡ではキャンプをはる計画でしたが、年齢70近い博士

のため、30余名の強力が夜具蒲団を運び、大割野からは本職の炊事を雇用。さながら大名行列で繰り込みました。博士は、前後の人から竹の杖で支えられ、常に童顔に笑みをたたえながら、19日午後4時、元気に湯沢までを踏破。「特長は柱状節理でしかもこれ程高いのは珍しい」と、名勝地指定へのお墨付きをもらうことができました（『十』8月20日）。

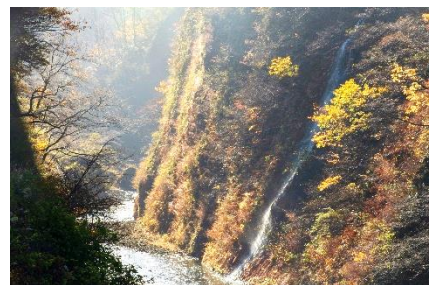
翌1937（同12）年、博士は「清津峡と小又峡」と題した一文を『文藝春秋』9月号（第15巻10号）に掲載。「日本に於ける峡谷を凡ゆる点から評価して見るに、（中略）総点数が最高となるのは黒部で、これを横綱の位置に据えたとすれば東の大関が清津峡で、西の大関が面河溪（おもごい）、これが公平な批判であると私は信じる」（カッコ内筆者）と、清津峡の美しさを称えました。これが清津峡の名を全国に知らしめます。38（同13）年、当時一流の文化人で、朝日新聞社副社長、NHK会長なども務め、のちに内閣情報局総裁として玉音放送をプロデュースすることになる下村宏（号：海南、1875-1957）が清津峡を訪れています。後日、彼が記した紀行文のなかでも、脇水博士の番付に言及されています（『十』同年8月25日）。

1937（同12）年6月、まず七ツ釜の指定が決定。当時の時代背景から朝鮮の「清津（せいしん）」と誤解されやすいと保留になっていた清津峡も、1941（昭和16）年4月23日、ついに国の名勝および天然記念物に指定されたのでした。

戦後、1949（同24）年、清津峡は上信越高原国立公園にも指定。96（平成8）年には溪谷トンネルが開坑。2018（同30）年にトンネルを再生した大地の芸術祭作品が話題となり、今では世界中の人々が訪れるスポットになっています。

しかし、5名の方が亡くなった雪崩事故、落石による死亡事故の続発など、数々の不幸な出来事もありました。景勝地とは、自然美のみならず、人の営みがつくった文化でもあります。歴史やドラマ、先人の苦労や努力に目を向けてみることも、景観をより深く味わうための一助となるのではないのでしょうか。

【参考】『日本風景誌』脇水鉄五郎著、河出書房、1939
『中里村史 通史編下巻』中里村史編さん委員会、1989
『十日町新聞 復刻縮刷版』第五巻、第六巻、十日町新聞社



編集・発行／十日町情報館・NPO法人らいぶフォーラム

〒948-0072 十日町市西本町2丁目1番地1 TEL／025-750-5100 FAX／025-750-5103

「らいぶフォーラム」は、十日町情報館と図書館分室の図書館サービス業務を受託している市民による非営利団体です。2014年2月にNPO法人となりました。



ホームページ



Facebook



9月のテーマ図書

■がんばりスイッチ オフ

9月は「新潟県自殺対策推進月間」です

夏の疲れや台風の影響などで、体調を崩している方はいらっしゃるいませんか？ また、学校では夏休みも終わり、生活リズムが変化しやすい時期でもあります。ときには“がんばりスイッチ”をオフにして、心身ともにリフレッシュしてみませんか？

心が安らぐような本を集めています。場所は2階カウンター正面です。



日本民俗学会名誉会員、新潟県民俗学会元会長

■追悼・駒形慇(さとし)さん

日本民俗学会名誉会員で、新潟県民俗学会会長や替女文化を顕彰する会理事などを歴任し、新潟県や中魚沼郡の民俗研究に大きな貢献をされた駒形慇さんが7月30日に亡くなりました。97歳でした。

駒形さんは1926(大正15)年、佐渡相川生まれ。広島高等師範学校地理歴史学科卒業後、1948(昭和23)年に初任地である県立十日町高等学校に赴任。歴史や民俗を調査・研究する部活動の顧問として、学生とともに中魚沼郡内の貴重な暮らしを調査しました。新潟県民俗学会会長に就任後は、全県の「人の暮らし」、民話や昔話などの聞き取り調査も行い、多数の著書に記録しています。

川西高等学校校長を退職後は、新潟県史をはじめ、県内市町村史における民俗分野全般の執筆を担当。十日町市史の編さんに際しても、編さん委員、民俗部会長として携わっていただきました。

著書に『こどもの四季』(“こどもの四季”刊行会、のち高志書院から復刊)、『わらべ歳時記』(野島出版)、『新越佐風土記』(同)、『越後・佐渡暮らしの歳時記』(国書刊行会)など多数。2023(令和5)年には、妻有新聞の連載に加筆して『妻有今昔物語』(妻有新聞社)が刊行されました。

今年3月には、昭和30年代から駒形さんが中魚沼郡の中里・川西、東頸城郡の松代・松之山などで民俗学的な視点から撮影した写真を、山内与喜男さんの作品とともに展示した写真展「山内与喜男×駒形さとし 二人展」(主催：十日町市古文書整理ボランティア)が、情報館ギャラリーにおいて開催されました。



■児童向け

どうぶつ大集合

『夜明けをまつどうぶつたち』、『アニマルランド』など、動物や生きものの本を紹介します。



もしも、にそなえよう

『地震がおきたら』、『大ピンチずかん』など、防災に関する本やピンチなお話を紹介します。



■一般向け

すてきな先輩

『みなさんのおかげです』、『熊楠さん、世界を歩く。』など、魅力的な生き方を描いた本を紹介します。

映画・ドラマになった本

『湖の女たち』、『もしも徳川家康が総理大臣になったら』など、ドラマや映画の原作本を紹介します。

中・高校生の職場体験

夏休みの期間中、市内6校10名の生徒さんが情報館で職場体験を行いました。体験してもらった業務は、本の整理整頓やカウンターでの貸出・返却、おすすめ本の紹介コーナーの設置などです。

本や図書館の仕事に興味を持って情報館を選んでくれたこと、普段から本に親しんでいる様子がうかがえたこと、とても嬉しく思います。今回の体験が働くことを考えるきっかけになれば幸いです。

利用者みなさんからも声をかけていただくなど、あたたかく見守っていただきました。ご理解とご協力、ありがとうございました。



スタッフによる日々の声をお伝えします

ねえ、きいて その48

今年の十五夜は9月17日。皆さんはどのようにお月見をしますか？私は花より団子派なので、「月見」といえば、だんご、ハンバーガー、うどんなど、思い浮かべるのは食べものばかりです。中国ドラマにはまっていることもあり、月を見ながら酒を飲む、という行為にとっても憧れがありますが、体質的に飲酒は無理。なので月餅を食べて雰囲気味わうことにしています。おいしいですが、カロリー高そう。食べすぎには注意したいと思います。(西野)





本のちから(6) ～ティーンズ読書会～

8月4日に「ティーンズ読書会 わたしの推し本紹介します」というイベントを開催しました。中学生から大人まで12名が参加し、おすすめ本を紹介しました。

それぞれが持ってきた本への熱い想いを紹介し、うんうんと頷きながら、「それいいですね」「私も読みました」と共感し合うことができました。また、「知らなかったです」「ぜひ読んでみたいです」などと、大いに盛り上がりました。初めは少し緊張していても、本を通して一瞬でお互いの距離が縮まる、まさに“本のちから”を実感しました。

あっという間に終了時間となり、話し足りなかった方もいらしたかもしれません。帰り際、たくさん

子ども読書活動推進コーディネーター 林 篤子



の方から「次回も参加します！」とのお言葉をいただきました。リピーターの方も、初めての方も、また、情報館で勉強の途中に推し本紹介を聞きにきてくれた方も、みなさんから楽しんでいただけたようです。

今回紹介していただいた本は、ティーンズコーナーにテーマ展示し、貸出をしています。ぜひ見に来てください。



9月15日(日)は家読(うちどく)の日

「家読(うちどく)」は「家庭読書」の略で、「家族ふれあい読書」の意味です。毎月第3日曜日は家族で読書を楽しみましょう。

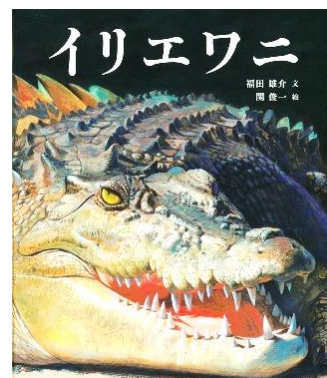
『イリエワニ』

福田 雄介／文、関 俊一／絵 福音館書店(絵本 Eセ)

オーストラリア北部、川と海の水が混ざり合う汽水域の一帯に暮らす世界最大のワニ、イリエワニ。大きなものは重さが1トン、全長6メートルを超えます。動物園やワニ園などにいるワニは、じっとしてほとんど動かない地味なイメージですが、野生のイリエワニは気性が荒く、肉食で何にでも食らいつきます。鎧のように硬くて分厚い鱗で覆われた体、口には折れても何度でも生え変わる66本の歯が並び、最強の水辺の王者にふさわしい姿です。

日本にはいない野生のワニの生態を、リアルで迫力のある絵で紹介しています。生まれたての30cmにもみえない子ワニが、天敵に襲われながらも成長し、逆に天敵が獲物へと変わる過程に自然の恐ろしさや厳しさを感じます。全編に描かれるワニのどう猛さは、息をのむほどの美しさです。(小堺)

スタッフのおすすめ本 (小堺)



新着資料紹介 7月21日～8月20日分

【一般図書】

●『図書館には人がいないほうがいい』内田樹／著 アルテスパブリッシング(総記 010ウ)●『日記から 50人、50の「その時」』坪内祐三／著 本の雑誌社(歴史 281ツ)●『弱った親と自分を守るお金とおくなサービス超入門』安藤なつ・太田差恵子／著 KADOKAWA(川西 369ア)●『おいしく食べられる身近な野草・雑草図鑑』岩槻秀明／著 ナツメ社(中里 471イ)●『みんなで着たい、手づくり服』美濃羽まゆみ／著 日本ヴォーグ社(松之山 593ミ)●『ちゃんと知りたいペットのお薬のこと』金田寿子・山口登志宏／著 緑書房(ペット 645カ)●『キネマ旬報の100年』キネマ旬報社(芸スポ 778キ)●『あなたを待ついくつかの部屋』角田光代／著 文藝春秋(日文 913.6カ)●『バタン島漂流記』西條奈加／著 光文社(松代 913.6サ)●『鷹の飛翔』堂場瞬一／著 講談社(日文 913.6ド)●『私の小説』町屋良平／著 河出書房新社(日文 913.6マ)●『人生は苺ショート』林真理子／著 マガジンハウス(日文 914.6ハ)

【児童図書】

●『ピーカーくんのなるほど理科室用語辞典』うえたに夫婦／著 誠文堂新光社(児童一般 407ウ)●『ジャングルのチョコレート工場』横山亜未／著 ポプラ社(児童一般 588ヨ)●『動物の義足やさん』沢田俊子／文 講談社(児童一般 649サ)●『おい、すてネコ『たまご』です』山口理／作 文研出版(児童日文 913ヤ)●『夜の日記』ヴィーラ・ヒラナンダニ／著 作品社(ティーンズ 933ヒ)●『ドにおとどけ』かのうかりん／絵 パインターナショナル(絵本 Eカ)●『くまたのびっくりだいさくせん』柴田ケイコ／著 白泉社(絵本 Eシ)●『うきうきおぼけ』せなけいこ／絵 フレーベル館(赤ちゃん絵本 Eセ)●『あなふさぎのジグモンタとおおきなあな』たかおゆうこ／絵 ひさかたチャイルド(中里児童 Eタ)●『うみへ しろいもじのおはなし』三浦太郎／作 偕成社(松代児童 Eミ)●『ジャジャー！』山口マオ／え あかね書房(川西赤ちゃん絵本 Eヤ)

【地域資料】

●『二人で持てば 歌集』小島文／著 NHK学園(地域ほか T911.1コ)

映画上映会『東京物語』

名匠・小津安二郎監督による1953（昭和28）年の作品。上京した老親を厄介者扱いする子どもたちと、ひとり温かくもてなす義理の娘。家族のあり方を描く、世界の映画史上に残る大傑作です。

監督／小津安二郎

出演／笠智衆、原節子、杉村春子ほか

日時／9月29日（日）

①午前10時～午後0時20分

②午後2時～4時20分（開場各30分前）

会場／視聴覚ホール 定員／各回先着90人

入場料／500円

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。

☆情報館事務室にて前売り券を販売中！



【令和6年度 情報館主催 パソコン講習】

エクセル初級

グラフ・表計算・予定表などの作成をします

日時／9月10日（火）・13日（金）・17日（火）・20日（金）

※全4回 午後7時～9時

対象／文字入力、マウス操作ができる人

受講料／5,000円 定員／先着15人

会場／コンピュータ研修室

申込み／専用チラシの申込用紙に記入してお持ちください。電話・FAXでもOKです。



閉架書庫を公開します

申込みは当日1階カウンターでお願いします。

日時／9月15日（日） 午後2時～5時

【今後の公開予定】

10/20、12/15、2/23、3/16（全て日曜日）

第92回名作読書講座

『檀山節考』 深沢七郎／著（新潮文庫）

残酷な棄老伝説を通じ、人間の矜持と生死の尊厳を極限まで問う名作です。

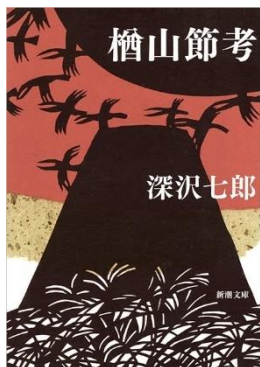
「お姥（くば）捨てるか裏山へ 裏じゃ蟹でも這って来る」。雪の檀山へ欣然と死に赴く老母おりんを、孝行息子の辰平は胸のはりさける思いで背板に掛けて捨てにゆきます。残酷であっても、それは貧しい部落の掟なのでした。

因習に閉ざされた棄老伝説を、近代的な小説にまで昇華させた「檀山節考」。一緒に読んでみませんか。

日程／9月19日（木） 午後7時30分～8時45分

会場／第1集会室 対象／中学生以上

定員／25人（申込み不要）



この夏読んだ、この1冊2024

みんなの読書感想画



大好きな本、心に残った本のイラストを募集中です！

募集期間 9月8日（日）まで



『ばけぱけぱくくん おかしなまき』
鈴木彩冬（いと）さん（8歳）

☆情報館スロープ、川西・松代分室に展示しています

9月のおはなし会

◆情報館

7日（土）・14日（土）

／おはなしぴよぴよ（乳幼児）

21日（土）／読み聞かせの会 どんぐり

（幼児～小学校低学年）

28日（土）／おはなし「たまてばこ」（乳幼児）

◆川西分室

21日（土）／おはなしの会「ふきのとう」

（乳幼児～小学校3年生くらい）

◆松代分室

14日（土）／おはなしたんぽぽ（幼児～小学校低学年）



その他の催し

●十日町地区老人クラブ連合会 作品展

日時／9月4日（水）～6日（金）※6日は午後1時まで

会場／ギャラリー 入場／無料

●武星会 悉曇梵字展

日時／9月14日（土）～22日（日）※22日は午後3時まで

会場／ギャラリー 入場／無料

●つまり写友会 写真展

日時／9月26日（木）～29日（日）

※29日は午後5時まで

会場／ギャラリー 入場／無料



十日町情報館 開館時間・休館日

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 第2・第4月曜日（当分の間）

特別整理期間、年末年始（12/29～1/3）

十日町情報館

〒948-0072 西本町二丁目1-1

電話／025-750-5100 FAX／025-750-5103